

東北連合ニュース

2019年10月13日(日) 発行、2019年度 No.2
発行：日本バプテスト連盟・東北バプテスト連合

北ブロック小羊会キャンプの報告

7月20日(土)、青森バプテスト教会で東北バプテスト連合北ブロック小羊会キャンプが行われました。子どもの参加者は15名。大人も合わせて35名でした。テーマは「You are special!」。午前中は近くの小学校で大人も子どもも缶蹴りに燃えました。礼拝ではみんなで大きな輪を作り、りんご先生(角本尚彦牧師)のギターのリードで、飛んだり跳ねたり!「すごく」を賛美して盛り上がりました。賛美の後、放蕩息子のお父さんからの話から、グループで質問に答える形で対話的な聖書の学びをしました。放蕩息子のお父さんの愛の深さに自分で気づき、それぞれが愛のメッセージを受け取りました。最後には「イエス様を信じたい」「バプテストを受けたい」「神さまのために働きたい」という招きに全員が応え、手をあげました。ハレルヤ!! (青森教会・角本みな子)

★プログラム

10:00～	受付
10:15～	開会礼拝・自己紹介
10:30～	ゲーム(缶蹴り)
12:30～	昼食 カレー
13:30～	賛美礼拝 (自由献金あり)
14:40～	ワークショップ・オカリナを作ろう♪
15:30～	
16:00	解散



南ブロック小羊会キャンプ報告

8月10日(土)、仙台基督教会で、こども20名、大人19名が参加して、東北バプテスト連合南ブロック小羊会キャンプが開かれました。テーマは「ひろげよう神さまの平和」。

8月は特に平和について考える時です。誰もが平和を望みながら実現されない平和。平和について聖書はどのように語っているか、小羊会のメンバーと今一度考えようと今回のテーマを選びました。

はじまりの礼拝の中で説教者は長崎カステラを見せ、美味しいカステラを作るためにはどうしたら良いか、その材料はどこから来るか、と問いかけ、そこから良い土壌が良質の材料を生み出すこと、地球環境と平和がつながっていることに話を展開しました。

分級は三つのグループに分かれ、「平和新聞」を作りました。用意された新聞紙から(今回は河北新報を使用)平和に関する記事を探し、それを切り抜いて大判の用紙に貼り付け、「平和新聞」を作りました。「平和」の記事を探すことにしたのですが、どのような記事を選ぶかは子どもたちに任せました。

おいしい食べ物があり、動物の寛いだ顔、きれいな花、スポーツする人たちの記事を切り抜き、貼り付けられた新聞が出来上がりました。

低学年の子たちも、幼稚園の子も、自由に記事を選び、はさみで切り抜き、高学年の子たちと一緒に作業をしました。その様子はとても平和的で楽しそうでした。今回、高学年のメンバーが良いリーダーシップを発揮してくれたように思いました。

ランチはオープンサンド、デザートのスィカをいただき、にぎやかで楽しい時間を共有しました。おやつはおはぎを手作りしました。初めてのおはぎ作りには戸惑いもあったようですが、興味深く取り組んでいたようでした。

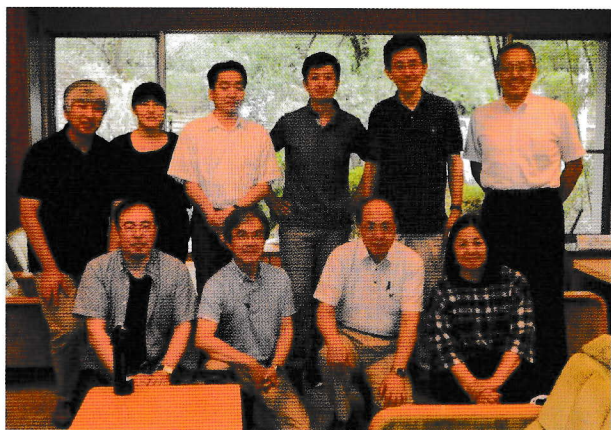
終わりの礼拝でそれぞれのグループが作った新聞の発表と平和新聞への思いを発表してもらいました。作品を見、思いを聞き、共感する大切な時間だったと思います。

あっという間の楽しい5時間でした。室内での活動が中心でしたが、今度は屋外でのプログラムを計画出来たらいいなと思っています。ありがとうございました。(仙台基督教会・尾形美都子)

東北バプテスト連合、牧師修養会

東北地方連合の牧師会修養会が7月29～30日の一泊二日で、岩手県雫石町の長栄館で開催されました。北は青森から南は福島まで10教会から参加がありました。初日の開会礼拝では、共に賛美を歌い心を込めて主をたたえました。仙台教会の小河牧師より聖書のローマ書12章3～5節の御言葉から、「多様性の大切さ」のテーマでメッセージをしていただきました。お互いに違いを認め合いながら、共に成長していくことができるという励ましをいただいて、共に祈りをしました。

2日目は、朝の礼拝で賛美と祈りをささげ、大富教会の小田 衛牧師から、ネヘミヤ記4章13～14節、8章9～10節より、献酌官ネヘミヤが城壁を再建する個所で、困難に立ち向かう人々を励ます様子から、「仕事は多く、範囲は広い」牧師の働きにとって、大切なのは角笛の音を聞いたら集まり、礼拝することであると教えたネヘミヤのように、牧師にとってこの牧師会が角笛の音に集まる場であるとの励ましをいただきました。



また、各教会の近況を報告し合い、それぞれの牧師が祈祷課題を分かち合ったり、牧師会の今後のあり方について分かち合ったりしながら、熱いディスカッションと交流が持たれました。このたび出産された小川紋子牧師には、牧師会から出産のお祝いのギフトカードがプレゼントされました。今後、牧師やその配偶者やご家族も共に、各県一教会の状況で孤立しないように、地域性に工夫をもちながら、交流を積極的に持っていくことの大切さを認識しました。次期の新しい牧師会幹事の候補に松坂有佳子牧師が選ばれ、今後の牧師会の活動にもさらなる期待が持たれます。(牧師会幹事・角本尚彦)

東北連合女性会・壮年会修養会

東北バプテスト連合女性会・壮年会の総会・修養会が、9月23日(月)～24日(火)の両日、松島・新富亭で開かれました。13教会から78人が出席。企画・運営は、大富キリスト教会の兄弟姉妹の方々。

午後1時に開会礼拝が始まり、南光台キリスト教会の田中信矢牧師が、詩編68編20節から、「主の恵みに生かされて」と題してメッセージを取り次がれました。



講演では、講師の大島博幸牧師(福島主のあしあとキリスト教会)が、「主にあって、世に仕える～コミュニケーション能力を高めて～」と題して、福島市での日本語教師の資格を生かしたE I WAN(福島移住女性支援ネットワーク)の働きへの関わりについてお話しいただくと共に、各自自分のニックネームを3枚紙に書いて、それを交換し合うゲーム形式のワーキングを楽しみながら、お互いのコミュニケーションについて学び合いました。



その後、女性会・壮年会それぞれの総会が開かれ、引き続き夕食前に、10分団に分かれての交流会が持たれました。各分団5～7人ずつの小集団で、それぞれの教会の出来事を報告し合いました。

2日目は、午前9時から朝の集いが持たれ、郡山コスモス通り教会の高橋悦子姉、山形教会の伊藤孝子姉、大富教会の斉藤徳子姉の3人から証しをしていただきました。クイズ形式のリフレッシュタイムを挟んで、閉会礼拝は大島博幸牧師が、マタイ福音書20章1～16節から「友よと呼ばかけられ」と題して、メッセージを取り次いでくださいました。

それぞれの置かれた教会の中で、お互い同士、また近隣の方々との交わりに生かされている一人一人であることを、改めて感じ取った修養会でした。